

富山県農村における乳児栄養調査について

富山県農村医学研究会 豊田 文一
 厚生連高岡病院健康管理科 森内 尋子
 長田 直美

はじめに

最近母乳哺育に対する関心が高まり、全国的にはもとより富山県においても、昭和53年「母乳育児をすすめる会」が設立され、医師を始めとし関係諸団体によりその啓蒙指導が活発に進められている。その意義として「母乳栄養は乳児の消化に適し、胃腸障害、アレルギー、肥りすぎなどはなく、疾病に対する抵抗力が増加する他、情緒的に安定した状態となるなど利点が多い」とされている。

私どもは、昭和59年、農協職員の年次健診に際して、個々面接によりその女子職員の出生児数とその哺育状態について調査を行った。

第1表 出生児調査

出生児 年齢	0	1	2	3	4	出生児数	平均 出生児数
29才以下 (91名)	22 24.1%	35 35.5%	29 31.7%	5 5.4%		108	1.19
30～39才 (553名)	21 3.8%	110 20.0%	308 55.7%	100 18.1%	14 2.5%	1,082	1.96
40～49才 (337名)	10 3.0%	54 16.0%	212 62.3%	56 16.6%	5 1.5%	688	2.04
50才以上 (54名)	6 11.1%	15 27.8%	26 48.1%	7 13.0%		88	1.63
合計 (1,035名)	59 5.6%	214 20.7%	575 55.6%	168 12.2%	19 1.8%	1,966	1.88

以下は22名で24.1%、30才代は21名、3.8%、40才代は10名3.0%、50才代6名、11.1%、で29才以下は結婚歴も浅く当然のことといえる。全般的にみると2児出生は575名、55.6%で半数を越え、次は1児出生で214名、20.7%、3児出生168名、12.2%、4児出生19名、1.8%である。ただ5児以上の出生は皆無であったのは奇異の感をいだかしめる。なお4児出生

得られた情報は1,130名で未婚者68名を除き、対象人員は1,035名であった。

なお農協女子職員の73%は農耕地を有し、その総ては兼業農家である。また大多数は農村にその居をもち、調査成績は富山県農村の実態とみて差し支えないと思う。

調査成績

1. 出生児数

対象の1,035名を年齢別に区分し、その出生児数を表示したのが第1表である。すなわち29才以下、30～39才、40～49才、50才以上に区分してみると出生児なしは59名、5.6%、29才

のうち双生児3名が含まれている。また1児出生は29以下にその比率大であることも当然と思われる。

平均出生児数は、全体として1.88名、で40才代は2.04名が最も多かった。

2. 乳児栄養の実態

総出生数1,966名について調査した。これを

全期間母乳，1～2ヶ月母乳→人工，3～5ヶ月母乳→人工，1～2ヶ月母乳→混合，3～5ヶ月母乳→混合，全期間混合，1～3ヶ月混合→人工，3～5ヶ月混合→人工，人工に分けて観察してみた。これを表示すれば第2表の如くなる。なお母乳栄養を6ヶ月以上行ったものを母乳とした。

母乳栄養は40才代，50才以上に多く， $\frac{1}{2}$ はこれを行っており，次で29才以下，30才代は

最も少なかった。また1～2ヶ月にて母乳より人工栄養としたものの大部分は産休中だけで，勤務の都合で人工に変えざるをえなかったといっていた。

混合栄養は199名，10.1%で混合より人工に変えたものは極めて少く0.8%に過ぎない。全期間人工栄養は862名，43.8%で，30才代51.3%，20才以下は可なり少く37.0%，40才代34.9%，50才以上は最も少く31.8%であった。

第2表 乳児栄養調査

栄養 年令	母乳	母乳→人工		母乳→混合		混合	混合→人工		人工	出生児数
		1～2ヶ月	3～5ヶ月	1～2ヶ月	3～5ヶ月		1～2ヶ月	3～5ヶ月		
29才以下 (79名)	22 20.4%	19 17.6%	7 6.5%	1 0.9%	4 3.7%	12 11.1%		3 2.7%	40 37.0%	108
30～39才 (532名)	196 18.1%	176 16.3%	42 3.8%	19 1.7%	15 1.4%	70 6.4%	10 0.9%		554 51.2%	1,082
40～49才 (327名)	150 26.2%	82 11.9%	58 8.4%	20 2.9%	12 1.7%	95 13.8%	1 0.1%		240 34.9%	688
50才以上 (48名)	22 25.0%	8 9.0%	1 1.1%	6 6.8%		22 25.0%		1 1.1%	28 31.8%	88
合計	420 21.4%	285 14.5%	108 5.5%	46 2.3%	31 1.5%	199 10.1%	11 0.6%	4 0.2%	862 43.8	1,966

総 括

私どもは，この出生児及び乳児栄養調査の成績について考察するに当り現在の農村について顧みる必要がある。先に述べたように農協女子職員の76%は，それぞれの家庭において農耕地を有している。しかし現在，かつて等質の社会であった農村は，非農家の増加によって，農家と非農家が混住化し，このため都市近郊の生活環境も混住社会として考えなくてはならない。古くから農耕に従事するものを農民と呼びならわしていたが，昨今この言葉は現状にそぐわず，農業従事者という語が慣用されている。富山県の現状をみても1農家当りの耕作面積（昭和55年：田，畑，樹園地を含めて）0.96haで，専業3.1%，1種兼業11.2%，2種兼業85.7%，で兼業率は全国最高位を占める。また昭和57年農家所得は1戸当り平均619万円，そのうち農外所得546万円（88.2%），農業所得73万円（11.2%）で，

この実態からも富山県農家経済がうかがえる。これに対し富山市の勤労者の所得は429万円である。ちなみに全国的にみてその平均は497万円，農外所得401万円（80.8%），農業所得は95万円（19.2%）で，富山県と対比して本県の農業経済の他地方との内容の隔差が著しい。

このような経済状況よりみると，高齢者とはかく中壮年層では農業以外の職業に従事していることは明かで，農協女子職員も夫とともに何れかの職場に勤務していることは明かである。その出生児に現われた数字も，40才代では2.04人と2人を上廻るが，その他は2人以下，平均1.88人で高令化社会への進展に拍車をかける感がする。富山県の出生率は人口千対11.8人で全国第47位（昭和56年度）で全国最下位である。ちなみに全国平均は13.0人となっている。このことは富山県民総合開発計画策定に当たっても，私の担当した人づくり部会でも人口問題について論議がかわされ，

県の活力向上のため若年層増加が必須条件として今後の重要課題として取りあげられたことが記憶に新しい。

この出生児数の調節は、戦後の一般的風潮とみられ、その原因として母体への健康、ことに容姿について云々されたこともあったが、近代的文化的生活の甘受、育児の余裕不足、また最近の高学歴社会から教育費の増高の予想などが無視できないと思う。他方国際的にみてその人口増加率は先進国は極めて低く、日本0.9%、米国1.0%、イギリス0%、東西ドイツともに-0.1%、フランス0.3%に対し開発途上国はアラブ首長国連邦7.3%、クエート6.3%、エチオピア3.5%、スーダン3.5%（1976～80年平均）で、この状況よりみて先進国における低出生率は世界的傾向で、その向上の期待は乏しいもののように思われる。

次に私どもの行った乳児栄養調査について述べてみよう。これは母親に面接でえたもので前述したように年令別に分けて観察した。これは諸統計の如く乳児検診の際にえられたものと多少趣を異にする点はないでもない。母乳栄養は6ヶ月以上これによって哺育するもので、40才代で26.2%、50才以上で25.0%、これに対して29才以下20.4%、30才代18.1%と比率が低い。ただこれを1ヶ月児としてみると、29才以下では38.0%、30才代では34.3%、40才代は38.1%、50才以上34.0%と $\frac{1}{3}$ を上まわる率で母乳栄養を行っている。3ヶ月児にしてみると29才以下26.9%、30才代21.9%、40才代32.6%、50才以上26.1%と、1ヶ月児に比較して激減している。これは女性勤労者の実情を物語るもので、母乳は十分あり、産休の間だけ母乳哺育をしたが、勤務につくため母乳を止めるため注射を行ってもらったというものも少なかった。これに対し、産科、あるいは小児科関係の人々の更に強力な啓蒙と指導を期待したい。

第3表に示すものは1ヶ月児の栄養調査である。ここにあらわれた母乳栄養数値は富山

県一般に比較して農村では可なり高率になっている。しかし人工栄養も最近の富山県全般に比らべて大きな比率である。

第3表 1ヶ月児の栄養調査（富山県）

栄養 昭和	母 乳	混 合	人 工
49	24.9%	28.6%	46.5%
50	31.4	31.2	37.4
51	33.7	32.3	34.0
52	36.0	36.0	29.0
53	35.3	35.0	26.6
54	37.6	39.9	22.5
55	37.6	41.0	21.4
56	39.9	39.9	20.2
農村の 調 査	45.2%	11.0%	43.8%

このことは農村において混合栄養の比率は極めて低く、それが人工栄養の高率に関連しているように思われる。

第4表 3ヶ月児の栄養調査

栄養 昭和	富 山 県		
	3 ヶ 月 児		
	母 乳	混 合	人 工
49	15.6%	19.6%	64.8%
50	18.0	23.2	58.8
51	19.2	26.5	54.3
52	20.2	24.3	55.5
53	19.5	24.5	56.0
54	21.7	23.7	54.6
55	20.7	23.1	56.2
56	23.9	23.9	52.6
農村の 調 査	26.9%	13.9	59.2%

第4表は3ヶ月児についての調査である。富山県における母乳栄養の比率は遂年の高まりつつあり、人工栄養の比率は減少の傾向がみられる。恐らく「母乳育児をすすめる会」の啓蒙指導の成果と思える。ただ農村においては県内のものより母乳栄養について僅かに上まわっているものの、人工栄養では60%近い比率である。しかし富山県平均と農村を比較すると前者は2.6倍、後者は1.3倍という現

象をあらわしている。

以上の事実は、農業兼業化の極めて高率な富山県において、家庭内の中壮年層は男女に拘らず、他産業あるいは職種に従事し、育児にたずさわる余裕の少ないことを意味するものと思われる。また今までの資料は乳児検診などにより集計されたもので、私どもの調査成績とは、その方法の相違も否定できない。しかし年代的に分別して観察すると、その世代に応じた傾向もうかがい知ることができると思う。

む す び

私どもは、昭和59年度農協職員定期健診においてその女子職員につき出生児数並びに乳児期の栄養について調査し、併せていささか考察を加えた。

これを要約すれば

1) その出生児の平均は、29才以下1.19名、30～39才1.96名、40～49才2.04名、50才以上1.63名、総平均1.88名であった。

2) 乳児栄養調査では、母乳栄養21.4%、混合栄養10.1%、人工栄養43.8%で、母乳より人工栄養へは1ヶ月児で14.5%、3ヶ月児で5.5%、母乳より混合栄養へは1ヶ月児で2.3%、3ヶ月児で1.5%、混合栄養は10.1%、混合より人工栄養へは1ヶ月児で2.3%、3ヶ月児で1.5%、混合栄養は10.1%、混合より人工栄養へは1ヶ月児で2.3%、3ヶ月児で0.2%、人工栄養のみで哺育したものの43.8%であった。

3) 富山県の乳児栄養調査成績と対比すると農村においては1ヶ月児、3ヶ月児ともに母乳栄養は高率で、混合栄養はこれに反し著しく低率であり、人工栄養は1ヶ月児でその比率は可なり高く、3ヶ月児も高率であった。

4) この事実は富山県農家の兼業率の高率化とともに農村婦人の就労に起因し、出産後の休暇も短期間で、乳児哺育の余裕が極めて少ないことによるものと思われる。

5) 以上の事実に基づき、私どもは農村婦人に対し、あらゆる機会に母乳哺育の重要性を強調し、啓蒙指導に努力すべきものと思う。